

世界史的内容はどう扱われてきたのか ～中学校社会科歴史的分野の検討から～

鈴木久男（千曲市立屋代中学校）

I はじめに

「内向き」の日本

- ・藤原帰一氏と酒井啓子氏の対談から（07/01/03 信濃毎日新聞紙上）
「他者性の欠如」という問題 → 外の世界と自分のいる世界を対比しながら見たり考えたりすることを好まない傾向にある。
「関心が日本人のみに収斂される」 → 想像力の欠如、共感する力の弱さ、問題を相対化して考える力のなさ
- ・二谷貞夫氏（『中等社会科の理論と実践』2007年 学文社）
世界的に進む教育改革が、国益中心「学力」重視の「内向き」改革の傾向にある。
社会科の精神から考えれば、多文化共生時代にふさわしい「外向き」の教育＝南北格差を真に是正する開発教育、環境教育、国際理解教育を重視した教育改革が求められる。

II 世界史的内容の現状は

中学校社会科歴史的分野、高等学校地理歴史科（社会科）世界史の教科書から見えてくるもの
消えていくイスラーム、前近代

- 1 記述量の変遷
- 2 用語（量）の比較
- 3 中学校と高等学校の世界史教育の接続の問題

III 世界史的内容はどう扱われてきたのか（内向きの歴史教育）

昭和20年代～現在までの世界史

- ・中学校社会科歴史的分野の相対的独自性 1955年（昭和30年）に確立
- ・世界史的内容の削減、前近代史の軽視、無視
- ・「現代社会の諸問題を解決するために歴史を学ぶ」から「自国の歴史に対する愛情を深めるために歴史を学ぶ」へ……
その検討（歴史は重要な社会認識の一つであるが教養主義的な歴史教育に陥っていないのか）
前近代世界の相互関連性 ネットワーク世界に目を向けさせる

IV 中学校社会科歴史的分野の相対的独自性の再認識を、そして実践を

1978年（昭和52年）告示、1981年（昭和56年）施行 高校学習指導要領社会科 世界史の内容の取り扱い → 従来あった「中学校社会科歴史的分野の学習の成果を活用する……」の文言が消える。
→ 中・高「世界史」の断絶

- ・世界史的内容と日本史的内容を総合させた歴史教育を。（選択教科「社会」も含め）
- ・1994年～実施、高校世界史A「諸文明の接触と交流」の視点を中学校の歴史教育に
“中・高「世界史」の接触と交流を”
国中心の組合せ世界史から同時代的世界史へ（人類の歩みを鳥瞰できる世界史）
2世紀世界（ローマ・漢・列島日本）、8世紀世界（イスラーム・唐・奈良、平安）、
13世紀世界（ヨーロッパ・モンゴル・鎌倉）、16世紀世界（大航海時代・室町末期）

[表1] 中学校社会科歴史的分野における世界史的内容の割合と4世紀～16世紀のイスラーム世界と西ヨーロッパ世界に関する記述量の変遷

	世界史的内容の割合 (対全ページ数比)		イスラーム世界 (ページ数)	西ヨーロッパ世界 (ページ数)	備考
1966年	34%	106/309	1.5	16	A
1977年	31%	97/309	2	14	B
1980年	33%	101/305	1.5	14	C
1981年	29%	92/322	2.5	11	D
1981年	25%	73/287	0.5	9	E
1993年	29%	89/305	6	8	F
1997年	25%	76/300	1	9	G
1997年	23%	68/291	2	8	H
2002年	16%	31/195	0	2	I
2006年	17%	37/215	0.5	2	J

備考欄のアルファベットは教科書出版社を示し、以下の通りである。

- A 日本書籍『中学社会2 歴史的分野』 B 清水書院『日本の歴史と世界 中学校社会科歴史的分野』
 C 東京書籍『新編 新しい社会 歴史的分野』 D 東京書籍『新しい社会 歴史』
 E 中教出版『中学生の社会科 日本の歩みと世界』 F 中教出版『中学生の社会科 日本の歩みと世界』
 G 東京書籍『新編 新しい社会 歴史』 H 帝国書院『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』
 I 東京書籍『新編 新しい社会 歴史』 J 東京書籍『新編 新しい社会 歴史』

[表2] 高等学校社会科(地歴科)世界史Bにおける4世紀～16世紀のイスラーム世界と西ヨーロッパ世界に関する記述量の変遷

[表2]	教科書出版社と総ページ数	イスラーム世界 (ページ数)	西ヨーロッパ世界 (ページ数)
1971年	三省堂『世界史B』 361	9	48
1974年	山川出版『標準世界史』 305	12	46
1985年	山川出版『詳説世界史』 345	13	46
1986年	三省堂『世界史改訂版』 357	18	48
1986年	東京書籍『新選世界史』 273	13	28
1994年	帝国書院『図説世界史B』 349	25	31
1996年	東京書籍『世界史B』 365	15	42
1997年	清水書院『詳解世界史B』 357	24	37
1998年	実教出版『世界史B新訂版』 359	24	45
1999年	山川出版『詳説世界史』 351	23	46
2003年	山川出版『詳説世界史B』 354	20	46

[表3] 教科書の用語比較 「7, 8世紀のイスラーム世界」・「イスラーム文化」

A1966年(昭和41年)日本書籍『中学社会2 歴史的分野』

イスラーム帝国 アラビア 商業都市 メッカ マホメット キリスト教 ユダヤ教 アラー イスラーム教 アラビア半島
 征服 西アジア 中央アジア 北アフリカ イベリア半島 サラセン帝国 バクダッド ヘレニズム文化の遺産 地理学
 数学 天文学 化学 インドの数字 アラビア数字 千夜一夜物語

B1971年(昭和46年)三省堂『世界史B』

アラビア半島 セム語族 ビザンチン帝国 ササン朝ペルシア 東西交通路 中継貿易 メッカ メジナ カーバ (聖殿)
 キリスト教 ユダヤ教 マホメット アラー ヘジラ イスラーム暦 アラビア半島 イスラーム教 コーラン 絶対帰依
 偶像崇拜禁止 サラセン帝国 大食 カリフ 異教徒 人頭税 (ジズヤ) イスラーム教徒 (モスレム) アリー ムアーウィヤ
 ダマスカス ウマイヤ朝 世襲制 シーア派 スンニー派 エジプト 北アフリカ イベリア半島 西ゴート王国 フランク王国
 ツール・ポアチエ アラビア人中心主義 アッパース朝 バクダッド タラス川 唐 製紙法 後ウマイヤ朝 コルドバ イスラーム文
 化 商業算術 代数学 アラビア数字 零の概念 天文学 物理学 錬金術 アルカリ アルコール イブン・ハルドゥーン
 イブン・バツータ 三大陸周遊記 千夜一夜物語 モスク アラバスク アルハンブラ宮殿 ギリシア文化の保存

a 2002年(平成14年)東京書籍『新編 新しい社会 歴史』

記述なし

b 2003年(平成15年)山川出版『詳説世界史B』

アラビア半島 遊牧 隊商 ササン朝 ビザンツ帝国 絹の道 海の道 アラビア半島西南部 メッカ 中継貿易 クライシュ族
 ムハンマド 唯一神アッラー 預言者 イスラーム教 メディナ ムスリム共同体 ヒジュラ (聖遷) ヒジュラ暦 太陰暦 カーバ
 コーラン アラビア語 絶対的服従 (イスラーム) ユダヤ教 キリスト教 啓典の民 カリフ ジハード シリア エジプト
 アリー ムアーウィヤ ダマスクス ウマイヤ朝 正統カリフ シーア派 スンナ派 インド西部 ソグディアナ 北アフリカ
 イベリア半島 西ゴート王国 トゥール・ボワティエ間の戦い ジズヤ ハラージュ イスラーム帝国 新改宗者 (マワーリー)
 アッパース朝 マンスール バクダード 官僚制度 イスラーム法 (シャリーア) コルドバ 後ウマイヤ朝 ハールーン・アッラシ
 ード サーマン朝 トゥールーン朝 イスラーム文明 都市文化 普遍的文明 イラン・イスラーム文化 トルコ・イスラーム文化
 インド・イスラーム文化 スペインのトレド ラテン語訳 ギリシア文明の橋渡し ウラマー モスク 学院(マドラサ) 市場 羊皮紙
 タラス河畔の戦い 製紙法 サマルカンド カイロ 神秘主義 歴史家タバーリ イブン・ハルドゥーン『世界史序説』 ギリシア語
 文献 医学 天文学 幾何学 光学 地理 アラビア数字 十進法 ゼロの観念 フワリズミー 代数学 三角法 錬金術
 オマル・ハイヤーム アリストテレス哲学 イブン・シーナー イブン・ルシュド 千夜一夜物語 イブン・バツータ 三大陸周遊記
 ミナレット 細密画 アラバスク

[表4] 教科書用語の比較 「西ヨーロッパ中世都市」

A1966年(昭和41年)日本書籍『中学社会2 歴史的分野』

十字軍 西アジアとの交通 東西貿易 イタリア ドイツ 都市同盟 領主支配 有力な商人、手工業者 自治 ベネチア ジェノバ
 フィレンツェ 共和国 組合 ギルド 規約 羊毛商人 親方 職人 徒弟 活動のさまたげ

B1971年(昭和46年)三省堂『世界史B』

ローマ都市 荘園 交換経済 市 商人・手工業者の定住 封建領主 封建的束縛 貨幣経済 ベネチア ジェノバ フィレンツェ
 ピサ 自由都市 遠隔地商業 共和制国家 リューベック ミュンヘン ギルド 同職ギルド (クラフトギルド、ツunft)
 市政参加 親方 職人 徒弟 市場独占 閉鎖的性格

a 2002年(平成14年)東京書籍『新編 新しい社会 歴史』

記述なし

b 2003年(平成15年)山川出版『詳説世界史B』

余剰生産物交換 ムスリム商人 ノルマン人 貨幣経済 遠隔地貿易 商業の復活 (商業ルネサンス) 地中海商業圏 ヴェネツィア
 ジェノヴァ ピサ 香辛料 ミラノ フィレンツェ 毛織物工業 北ヨーロッパ商業圏 北ドイツ諸都市 ハンブルク リューベ
 ック ブレーメン 生活必需品 フランドル地方 ガン ブリュージュ ロンドン シャンパーニュ地方 ニュルンベルク アウク
 スブルク 司教座都市 特許状 自治権 自治都市 北イタリア コムーネ 都市国家 ドイツ 自由都市 ロンバルディア同盟
 ハンザ同盟 城壁 ギルド 商人ギルド 同職ギルド (ツunft) ツunft闘争 親方 職人 徒弟 自由競争禁止 規約
 アウグスブルクのフッガー家 フィレンツェのメディチ家 教皇

[表5] 中学校社会科教科書歴的分野における「世界史的内容」の割合
 中学校社会科歴史的分野における世界史的内容の割合と4世紀～16世紀のイスラム世界と
 西ヨーロッパ世界に関する記述量

2007年発刊教科書

世界史的内容の割合 (対全ページ数比)	イスラム世界 (ページ数)	西ヨーロッパ世界 (ページ数)	出版社
18% 42/233	1	3	帝国書院
18% 40/220	1	2	東京書籍
18% 39/217	2	2	日本文教出版
21% 49/237	1	3	日本書籍新社
23% 47/204	0.5	4	教育出版
13% 30/227	0.5	1.5	扶桑社
21% 50/235	2	2	大阪書籍
21% 49/229	2	6	清水書院

- ・帝国書院 『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』
- ・東京書籍 『新編 新しい社会 歴史』
- ・日本文教出版 『中学生の社会科 歴史 日本の歩みと世界』
- ・日本書籍新社 『わたしたちの中学社会 歴史的分野』
- ・教育出版 『中学社会 歴史 未来をみつめて』
- ・扶桑社 『中学社会 新しい歴史教科書』
- ・大阪書籍 『中学社会 歴史的分野』
- ・清水書院 『新中学校 歴史 改訂版 日本の歴史と世界』

戦前、戦後の世界史（外国史）の扱われ方

戦前「中学校教授要目」、中学校社会科歴史的分野、高校地理歴史科（社会科）世界史の「学習指導要領」比較

中学校歴史教育では戦前、戦後を一貫して

「世界の歴史(外国史)は日本史に関係のある事項を教えること」(近現代史の重視と前近代史の軽視)



世界の歴史については、我が国の歴史と直接かかわる事柄を取り扱うにとどめること。(前近代史の無視)

- A 1901年（明治34年）「中学校令施行規則」で新たに学科とその程度が定められた。
 第五条……歴史ハ日本歴史及外国歴史トシ日本歴史ニ於テハ国初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事歴ヲ授ケ外国歴史ニ於テハ世界大勢ノ変遷ニ関スル事ヲ主トシ著名ナル諸国ノ興亡、人文ノ発達及我国ノ文化ニ関係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシムヘシ
- B 1902年（明治35年）「中学校教授要目」により各学年の各学科や授業時数の要領を示した。各中学校はこの要目を基準として授業内容を定めることとなり、この結果中学校の教育内容の全国画一化が進むこととなった。
 「教授上ノ注意」
五、外国歴史ハ特ニ我国ト関係アル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- C 1918年（大正7年）大正期の中学校歴史教授上の目的（長野県立松本中学校）
 歴史科
 2 外国史（東洋史・西洋史）ノ教授ヲ簡約ニシ、一層国史ノ教育ヲ重ンズ。
 4 国史・外国史ニ於テハ、最近世史ニ最も重キヲ置ク。特ニ最上級生ニ対シテハ、最近三十年間ノ国際関係ノ推移変遷ヲ叙セル別冊ヲ印刷シ配布ス。
 5 最上級ニ於テハ、政治的思想ノ養成、国民的自覚心ノ喚起ノ目的ヲ以テ、教材ヲ外国史ニ採リ、出来ルダケ日本史ニ於テ既ニ習得セル智識ト比較セシメ、歴史的考察ヲ養成スルコト。
- D 1921年（大正10年）千葉県が県下教育機関に発した通牒
歴史教育の留意点
 一 歴史科ニ於テハ古代ヨリモ近世ニ重ヲ置キ社会ノ変遷邦国ノ盛衰ニ関スル明晰ナル概念ヲ与ヘ特ニ我カ国体ノ特異ナル所以及大義名分ヲ明ナラシムルコトニ主カヲ注クヘキハ勿論ナル……

1945年（昭和20年）

- E 1955年（昭和30年）『中学校学習指導要領 社会科』
 新たに登場した歴史的分野は、その具体目標2で
 日本の歴史を世界史との関連や比較において考える態度を養い、日本の歴史の独特の発展の姿を理解させると同時に、広く世界各地の人類の歴史的活動の底には、共通な発展の姿や人間的感情や意欲があることを理解させ、今日の社会生活上の諸問題を、世界史的な広い視野から理解していく態度を養う。

- a 1956年(昭和31年)告示、施行『高等学校学習指導要領 社会科』 **世界史** 目標
- 中学社会科の歴史的内容を主とするものの学習は、日本の歴史に関するものをおもに取り扱っているが、**これとの関連と比較において、世界史に関する内容を取り入れ、結果として世界史の流れのあらましをもつかむことを目標としている。**
- 高等学校の世界史は、中学校におけるこれらの学習の成果をじゅうぶん生かしながら、**世界史をより深く、科学的、系統的に理解させ、また世界の諸民族、諸国家が孤立してでなく、互いに交渉をもちながら発展してきたことを認識させる。……

F 1958年(昭和33年)告示、1962年(昭和37年)施行『中学校学習指導要領 社会科』

第2学年目標

- (4) **近代史の学習に重点をおき、……**

内 容

- (5) 近代世界の成立 「近代ヨーロッパへの歩み」

……指導にあたっては、ヨーロッパの中世社会に簡単に触れてルネサンスや宗教改革にいたった事情を考えさせ、また宗教改革とキリスト教のアジアへの伝道との関係に気づかせるとともに、ヨーロッパ人のいわゆる地理上の発見によって、世界の各地がしだいに結びついていったことに着目させることがたいせつである。

指導上の留意事項

- (4) ……日本に特に関係の深いことがら以外は、適当に大きくまとめて学習させることが望ましい。また、世界史の中では、特に近代世界の成立とその発展に重点をおき、日本の近代化を考察する上に役だたせるように配慮することが重要である。

高校世界史に「文化圏」※という概念が登場

※「文化圏」については、1989年学習指導要領の解説で、「地域性及び歴史性によって培われた共通文化要素をもつ空間領域」と規定されている。

- b 1960年(昭和35年)告示、1963年(昭和38年)施行『高等学校学習指導要領 社会科』 **世界史A、B**

計画作成および指導上の留意事項

- (1) **中学校「社会科」、特に歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、……**
- (3) 地理上の発見以前で、世界の諸地域が密接な関連を持たない時期、たとえばヨーロッパの古代・中世にあたる時期において、一つの例として、ヨーロッパ、インド・西アジア、東アジアなどの文化圏別に、ある程度の大きなまとまりをもたせて学習させることも考えられる。

G 1969年(昭和44年)告示、1972年(昭和47年)施行『中学校学習指導要領 社会科』

[歴史的分野]

1 目 標

- (1) 世界の歴史を背景に、広い視野に立って日本の歴史を理解させ、それを通してわが国の伝統と文化の特色を考えさせるとともに、国民としての心情と現在および未来に生きる日本人としての自覚を育てる。

- c 1970年(昭和45年)告示、1973年(昭和48年)施行『高等学校学習指導要領 社会科』 **世界史 内容の取り扱い**

(4) 内容の指導

- ア **中学校の社会、特に歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、……**
- ウ 「世界史」の指導にあたっては、必要に応じて、世界の歴史上の事象と日本の歴史上の事象とを比較させたり、関連させたりするなどして、世界の歴史におけるわが国の地位を明らかにすること。

H 1977年（昭和52年）告示、1981年（昭和56年）施行『中学校学習指導要領 社会科』

[歴史的分野]

1 目標

- (1) **我が国の歴史を、世界の歴史を背景に理解させ**、それを通してわが国の伝統と文化の特色を考えさせるとともに、国民としての自覚を育てる。

d 1978年（昭和53年）告示、1982年（昭和57年）施行『高等学校学習指導要領 社会科』 **世界史 内容の取り扱い**

中学校社会科歴史的分野の学習の成果を活用する……の文言が消える。

資料Ⅱ－③

主題学習の観点として

- d **世界の歴史上の事象と日本の歴史上の事象とを比較させたり、関連させたりするなどして**、世界の歴史におけるわが国の位置について学習できるもの。

I 1989年（平成元年）告示、1993年（平成5年）施行『中学校学習指導要領 社会科』

[歴史的分野]

1 目標

- (1) **我が国の歴史を、世界の歴史を背景に理解させ**、それを通してわが国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、国民としての自覚を育てる。

地理歴史科世界史へ

世界史A 前近代の内容構成として「**諸文明の接触と交流**」が登場

世界史B 「**交流圏**」という新たな視点が提起された

e 1989年（平成元年）告示、1994年（平成6年）施行『高等学校学習指導要領 地理歴史科』 **世界史B**

内容の取り扱い

内容の(2) 東アジア文化圏の形成と発展 (3) 西アジア・南アジアの文化圏と東西交流 (4) ヨーロッパ文化圏の形成と発展について

- (ウ) **隣接する文化圏相互の接触や交流をとらえ、文化の多様性や複合性も理解させる。**その際、地中海地域、インド洋地域、中央アジアを**文化の交流圏として設定**するなど、接触や交流を時間的、空間的にとらえさせる工夫をすること。
- (オ) 比較文化的視点から世界の歴史の中の日本の位置付けについても着目させること。

J 1998年（平成10年）告示、2002年（平成14年）施行『中学校学習指導要領 社会科』

[歴史的分野]

1 目標

- (1) 歴史的事象に対する関心を高め、**我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ**、それを通してわが国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。

3 内容の取り扱い

- (1) 内容の取り扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- ア 生徒の発達段階を考慮し、**抽象的で高度な内容や複雑な社会構造などに深入りすることは避ける**とともに、各時代の特色を表す歴史的事象を重点的に選んで指導内容を構成することにより、細かな知識を記憶するだけの学習に陥らないようにすること。

イ 世界の歴史については、我が国に歴史を理解する際の背景として我が国の歴史と直接かかわる事柄を取り扱うにとどめること。

(5) 内容(4)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの「ヨーロッパ人の来航」の背景については、新航路の開拓を中心に取り扱い、宗教改革については深入りしないようにすること。

f 1999年(平成11年)告示、2003(平成15年)施行『高等学校学習指導要領 地理歴史科』 **世界史A、B 内容**

世界史A

前近代史 ユーラシアを中心に形成された交流圏とそれを支えた都市や港のネットワークを学ぶ。

世界史B

世界史学習の導入部に「世界史の扉」を設定し、世界史と日本史とのつながりについて適切な事例をあげ、接触・交流の具体的様相を追究させ、日本列島の歴史と世界史との密接なつながりに気付かせる。

内容の取り扱い

(イ) 比較文化的視点から世界の歴史の中の日本の位置付けについても着目させること。